

# 北海道水産会

NO.266

January ◆ 2016



# 北海道水産会

## CONTENTS

NO.266

January

◆ 2016 ◆

新年のごあいさつ ..... 1

2016年 新年の集い ..... 2

平成27年度後期活動のあらまし ..... 4

2016年北方四島周辺海域の操業に係る日口漁業交渉

2016年日口地先沖合漁業に係る取り組み

国費予算等の措置に係る活動

平成27年度北海道水産会第三回理事会開催 ..... 6

魚食普及・食育活動 ..... 7

魚食普及・食育PR活動

漁師になりたい若者と浜をつなぐ活動 ..... 9

長期漁業研修生に対する面談活動

漁業就業支援フェア 2015（東京会場）への出展

北方地域漁業権をめぐる活動 ..... 12

北方地域漁業権補償推進委員会理事会と代議員会の合同会議開催

北方地域漁業権補償推進委員会道及び中央要望

<トピック1> ..... 6

<トピック2> ..... 9

新刊行物紹介 ..... 13

表紙の写真

コンブで新春祝う (水産ビル)	道東のサンマ (釧路)	
噴火湾の養殖ホタテ (伊達)		
道南のイカ釣り (奥尻)	知床の秋サケ漁 (羅臼)	札幌市中央 卸売市場 初セリ

# 新年のびょうめい

一般社団法人 北海道水産会 代表理事会長 川崎 一好

新年、明けましておめでとうございます。皆様には、お元気で新春を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

昨年、日本経済は、緩やかな回復傾向を見せ、インフレ2%は達成しないまでも、実質的には、デフレでないとの見方もされてきました。しかし、地方は、円安に伴う輸入品高や人手不足等で苦戦をしている中、新たな三本の矢で一億総活躍社会へ、さらにガンバロウとの声がかかっております。

本道水産業界も、この間、努力してきたところではありますが、台風・低気圧などの悪天候により、大宗漁業のホタテや秋サケで大き

く生産が減少しました。サンマも大幅減となっております。幸い魚価高で水揚げ金額は、3、000億円を維持できそうですが、消費者のサカナ離れが心配になります。

迎えた、平成28年は、本道水産業界の転換点になるのではないのでしょうか。北洋漁業の代名詞ともいべき、ロシア水域でのサケ・マス流し網漁業途絶への対策、TPP大筋合意への対策、道の日本海振興対策、国の浜プラン等をもとに、持続可能な操業体制の構築や消費者の国産水産物選択へのインセンティブを確実に推進していくべきと考えております。

加えて、3月の北海道新幹線開業が道南への経済波及にとどまらず、北海道全体に及ぶよう官民あげての取り組みが必要とされる中で、内外からの来道客への道産水産物の消費拡大、さらに、輸出の拡大へと水産業界としても、その一翼を担う役割が期待されております。

すでに浜は、それぞれ自ら動いて、努力しておりますので、国・道の施策、資金支援とも相まって、その成果が一層上がるよう、本会としても生産を支える漁業就業対策をはじめ、漁業経営の安定対策、資源の維持増大、消費拡大、漁港・漁村の整備、ロシアとの関係漁業交渉等に関係機関・団体と密接な連携を取りながら進めて参ります。会員皆様方のご支援とご理解を心からお願い申し上げます、新年のごあいさつと致します。



# 2016年 新年の集い

平成28年1月12日(火)に「2016年 新年の集い」を開催致しました。

系統団体長・会員団体長をはじめ、常勤役員の方々、ご来賓として荒川道副知事、山崎水産林務部長、水産林務部幹部の皆様、総勢約90名の方々が出席されました。

主催者挨拶 一般社団法人北海道水産会

代表理事会長 川崎 一好



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年の北海道水産業界は本当に難しい一年でした、ロシア200海里内のさけ・ます流し網漁業禁止、TPP大筋合意、台風・低気圧による災害等ありましたが、国・道の指導と皆様のご協力でなんとか乗り越えることが出来ました。今年は、「申」年です、良い年になると期待しておりますが、結果は大晦日にならないと分かりません。しかし、漁業者は漁業を継続するしかありません。関連業界の皆様をはじめ、行政、関係団体に一層のご協力とご支援をお願い致します。

ご来賓挨拶

北海道副知事 荒川 裕生



昨年は、台風と低気圧による災害、サンマ・イカの不漁があったが、魚価高により生産額は、3、000億円の維持が見込まれます。

国際的には、ロシア200海里内におけるさけ・ます流し網漁業の禁止やTPP大筋合意等、大きな問題に直面した一年でした。

明るい話題としては、道産水産物の輸出が600億円を超える勢いとなりました。安心・安全な道産水産物を更にPRし、輸出拡大を推進します。

加えて、道としては、水産業界が将来にわたって魅力ある産業として発展することを、今日お集りの皆様方と連携し、取り組んで参ります。



鎌田組合長のスピーチ



濱野理事長のスピーチ



横内会長の乾杯



幹部の紹介



中田水産局長による幹部の紹介



会場の様子

北海道水産林務部長 山崎 峰男

本道水産業界に昨年は本当にいろいろな事が起きました。10年、20年に一度というような大変な時期に水産林務部長を拝命し、改めて感謝申し上げます。

諸課題の対策は、昨年末に対応が決定し、残るは、それを浜のために実行して行くという事と、最後の詰めを誤らないよう一生懸命取り組んで参ります。

今年、「申」年です、昨年の災い等は、「去る」ということ、また、「申」年ですので、ぴよんぴよん跳ねて行きたいと思いますが、木から落ちないように気を付けたいと思います。

最後になりますが、本道水産業界の発展をご祈念致しまして、あいさつと致します。



山崎部長による挨拶と三本締め



三本締め

# 平成27年度後期活動のあらまし

## 2016年北方四島周辺海域の操業に係る日ロ漁業交渉

北方四島周辺海域における2016年の操業条件を決める民間交渉は、本会の高橋副会長を交渉団長に11月9日から12日の4日間の日程でモスクワにて行われました。

日本側出席者は、高橋団長のほか北方四島周辺海域操業対策協議会会長田中勝博氏（羅白漁協組合長）、大日本水産会チーフアドバイザー阿部勇氏と、協議会事務局藤本巧氏（羅白漁協指導部次長）、オブザーバーに外務省欧州局ロシア課田中事務官、水産庁資源管理部国際課佐々木調査官、佐藤国際係長、在ロシア日本国大使館郡参事官、新村一等書記官、道庁水産林務部漁業管理課中島国際漁業担当課長、今泉主査の計11名。対するロシア側出席者は、シマコフ連邦漁業庁国際協力局長を代表に、ヴォルコフ連邦保安庁国境警備局海洋生物資源保護部次長以下9名。

協議は、操業条件として、漁獲量、漁期、操業隻数、協力金、ロシア側見学者の派遣条件や双方の操業秩序問題などが話し合わせ、表1の



北方四島周辺海域民間交渉・署名式

漁業種類	漁獲量	操業隻数	操業期間
すけとうだら刺し網漁業	九二二トン	二〇隻	一月一日～三月十五日
ほっけ刺し網漁業	一、〇六〇トン	二〇隻	九月十六日～十二月三十一日
たこ空釣り漁業	二〇八トン	八隻	一月一日～一月三十一日 十月十六日～十二月三十一日

漁業協力金 二、一三〇万円 機材供与 二、一〇〇万円相当

とおり2015年と同様の内容で合意がなされました。

## 2016年日ロ地先沖合漁業に係る取り組み

2016年の日露双方の200海里地先沖合での操業条件を決める「日ソ地先沖合漁業協定」に基づく日ロ漁業委員会第32回会議は、12月7日からモスクワにおいて12月16日までの日程で開催されました。

これに先立ち、北海道水産会は、関係業界とともに道及び国に対する要請活動を11月19、20日の両日に行いました。

2016年の操業条件整備にあたっては、本道周辺海域の資源状態が依然として好転の兆しが見えないことや国内市場での魚価の低迷など漁業経営が逼迫している現状を考慮し、出漁漁船の経営維持が図られるよう水産庁、外務省及び道内選出国会議員等に強く要請しました。

交渉は、日本政府代表の浅川京子水産庁資源管理部長とロシア政府代表のサフチュクP.S.連邦漁業庁副長官の間で進められ、日露双方の200海里水域における相手国漁船の漁獲割当量等の操業条件について協議が行われ、12月16日に相互入漁の漁獲割当量が前年に比べ1.7%増加の内容で妥結しました。

主な魚種別では前年に比べ、スケトウダラが66.6%



水産庁浅川資源管理部長へ要望



北海道水産林務部山崎部長へ要望



外務省へ要望



水産庁香川次長へ要望

の減少の一方、イカは4.3%の増加、サンマは3.2%の増加となりました。また、協力費も27.0%の増加となりました。

有償入漁は前年に比べ、漁獲割当量が51.6%の減少に伴い、ロシア側に支払う見返り金は61.5%減少の内容で合意されました(表2、3)。総体的には、日本側の関係団体の要望が大筋で反映された内容となりました。

交渉妥結に尽力されました政府代表をはじめ代表団の皆様方のご労苦に対し、深く感謝申し上げます。

表2 二〇二六年のロシア二〇〇海里水域における日本漁船の操業条件

(一)相互入漁(相手国の二〇〇海里内で漁獲する量がお互いに等量で操業するもの)

区	分	漁獲割当量	種		協
			い	わ	
二〇一六年	二〇一五年	六三、四五九トシ	さ	ま	四億一、八四四万円
			五三、〇二〇トシ	五、一三七トシ	
二〇一五年	二〇一六年	六二、三九五トシ	さ	ま	三億二、九一三万円
			五〇、〇〇トシ	七、〇〇七トシ	

(二)有償入漁(日本漁船がロシア側に入漁料を支払い操業するもの)

区	分	漁獲割当量	種		見返り金額
			い	わ	
二〇一六年	二〇一五年	一、〇四四トシ	さ	ま	八、七四三万円
			一、〇四四トシ	九八、一三トシ	
二〇一五年	二〇一六年	一、〇四四トシ	さ	ま	三、三六八万円
			一、〇四四トシ	五、三七五万円	

表3 二〇二六年の日本二〇〇海里水域におけるロシア漁船の操業条件

国費予算等の措置に係る活動

平成27年度の自由民主党北海道支部連合会及び公明党北海道本部並びに民主党北海道総支部連合会と漁協系統団体・本会等が意見交換をする政策懇談会が9月以降11月迄に相次いで開催されました。本会は、本道漁業・漁村の振興発展を図るため、北海道漁業における当面の課題について漁協系統団体とともに、漁業経営の窮状を訴

えるとともに、明年度の国費予算編成に向けた要請を行いました。自民党道連との政策懇談会は10月6日に北海道議会第2委員会室で開催され、道議会議員等が出席した中、本会からは高橋代表理事副会長が出席し、さけ・ますやひらめ、まつかわ等の栽培漁業の推進、漁港・漁場の整備促進、水産基盤整備の予算確保や北洋さけ・ます漁業への支援などについて要望するとともに、系統団体からは北海道漁業協同組合連合会の西代表理事副会長、北海道信用漁業協同組合連合会の末岡代表理事副会長などが出席し、日本海漁業等の資源増大・管理対策、担い手確保や漁業金融対策等の漁業経営の体質強化対策、トド等有害生物による漁業被害対策や水産多面的機能発揮対策事業の拡大等の豊かで安全な漁場環境づくり対策について要望しました。

意見交換では、ロシア200海里水域におけるさけ・ます流し網漁業の禁止に伴う対策、公海等におけるさんま資源の国際的な管理強化、老朽漁船の対策などの必要性が検討されました。

民主党北海道総支部連合会との政策懇談会は9月29日、公明党北海道本部との政策懇談会は11月14日にそれぞれ関係者が出席し、同様の内容で実施されました。



自民党道連懇談会水産会・系統団体



自民党道連懇談会水産会・系統団体



民主党北海道総支部連合会懇談会



自民党道連懇談会道議会議員



公明党北海道本部懇談会



自民党道連懇談会道議会議員

## 平成27年度 北海道水産会第二回理事会開催

平成27年12月15日に平成27年度第3回理事会を開催致しました。

### 議案第1号

「平成27年度上半期貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書）、貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書、財産目録の承認について」

### 議案第2号

「特定個人情報取扱規程の新規制定について」

### 議案第3号

「文書保存・管理規程の一部改正について」

### 議案第4号

「国際漁業再編対策に係る事業実施主体について」

### 報告事項第1号

「平成27年度上半期事業報告、事業報告の附属明細書について」

### 報告事項第2号

「平成28年「新年の集い」の開催について」

いづれの議案も原案のとおり、承認可決されました。



川崎会長挨拶



各理事



監事報告

## トピック 1

### ロシア人ほっけ研究者の来道

サハリン漁業・海洋科学調査研究所（サフニコ）の研究者が北方四島周辺海域操業ほっけ刺し網漁業の試験的操業に参加するため、平成27年9月26日に来道し10月10日まで滞在しました。試験的操業と研究者の受入れは、日ロ民間交渉で締結された了解覚書に基づき行われているものです。

来道したベレズニョフ・チムール氏は27歳の若手科学者で、「試験的操業はサフニコにとって、ほっけ資源に関するデータを得られる貴重な機会である。自分にとっても非常に有意義である。初めての北海道であり楽しみたい」と話していました。

同氏は操業船に乗船して漁場へ行き、船上で漁獲されたホッケを計測するなどのデータ収集を行ったほか、混獲状況などを確認しました。そして、「日本の沿岸漁業は非常に興味深い。冬の流水が発生する時期の操業にも関心があるので、機会があればまた来道したい」との言葉を残して帰国しました。



来道したベレズニョフ氏(ユジノサハリンスク生まれ)

# 魚食普及・食育活動

## 魚食普及・食育PR活動

一般社団法人 北海道水産会の「平成27年度 魚食普及・食育PR活動」としてのイベントは、平成28年1月末までの10ヶ月間に函館市他延べ9カ所で開催されました。共催相手の内訳は、石狩・後志、檜山、および渡島管内漁業士会の延べ4件、北見地区漁協女性部連絡協議会の1件、そして北見、宗谷、渡島および根室地区漁協青年部連絡協議会の計4件の合計9件です。今年度は漁協青年部連絡協議会との共催が多いのが特徴です。各イベントに参加してくれた人達は、小学生から成人までの幅広い年齢層でした。最近の特徴としては小学校、大学などの教育施設で行うことが増えています。講師は女性部員、青年部員および漁業士会員などが担当し、浜の料理等を紹介しました。昨年度初めて行われた旭川調理師専門学校での出前授業は、今年度も学校側の希望により行われました。また、根室地区漁協青年部連絡協議会とのイベントは料理教室ではなく講習会としての開催で、組織内会員を対象としました。

料理食材とした魚介藻種として最も多いのがサケ（6件）で、以下ホタテガイ（6件）、イカ（2件）、コンブ（2件）、ミズタコ（1件）、スケトウダラ（1件）、アワビ（1件）、ブリ（1件）、ニシン（1件）の順でした（重複あり）。函館大谷短大での出前授業では最近多獲されるブリが材料とされ、北海道の漁獲傾向が反映されました。

宗谷地区漁協青年部連絡協議会によ



旭川調理専門学校の本格的な厨房で料理(旭川2)

る旭川調理師専門学校での出前授業では、学生は漁協青年部連絡協議会から提供された新鮮な魚介藻類を材料として浜料理ではない各種の料理を提案しました。調理師学校を修了した後、レストランなどの飲食業界で働くことが多い学生が、本道の新鮮な魚介藻類を積極的に使ってくれることを願わずにはられません。

今年もサケとホタテの料理が多い結果になりましたが、本道各地の主要魚介藻類を見てみると、スケトウダラ、サンマ、ホッケおよびカレイ類なども食材としたいところです。今年度はスケトウダラやブリが登場しました。次の新たな魚種の登場に期待します。また、スローフードと対極にある缶詰やファストフィッシュ商品を工夫・利用したアイデア料理などの提案もあって良いでしょう。漁業士会、女性部、青年部の皆様、良いアイデアがあったら提供願います。

最後に、各イベントの様子を写真で紹介いたします。参加していただいた皆様ありがとうございました。骨を折っていただいたスタッフの皆様ありがとうございます。



学生、スタッフ共々記念撮影(旭川2)



ゲストを招いての試食です  
作った私たちも楽しみです(旭川2)



未来の調理師さんたち(旭川2)



コンプの出汁入り味噌汁は  
こっちな(函館)



ふにふにこゆで気持ちいい(赤井川)



きれいに洗ってね(常呂)



普段やっていないので難しいです  
(赤井川)



お母さんきたね(赤井川)



お母さんの腕前を録画するね  
(函館)



だいぶ勉強したので(旭川1)



よくかき混ぜて(常呂)



ブリの骨は硬い(函館)



よく見ていてね(江差)



やったー(赤井川)



強く押しても大丈夫だよ(江差)



反応しちゃうんです(函館)



漁師さんあがっている(旭川1)



先生も思わず笑顔(常呂)



会報を使って水産会のPR(函館)



新たなメニューブリの刺身  
(函館)



スタッフも楽しみな試食会(旭川1)



美味しいよな(江差)



やったー(江差)



今日一日楽しかったです(函館)



食べているときは静かです(常呂)

## トピック 2

### 北海道水産会「食育・魚食普及事業」

#### 初の講演会が開催されました

平成27年12月12日（土）に、釧路プリンスホテルで、本会と根室地区漁協青年部連絡協議会との共催で、平成27年度 全道ブロック別漁協青年部幹部研修会（道東ブロック）で講演会が催されました。

本会は、平成22年度から「食育・魚食普及研修会・料理教室」事業により漁業士会、漁協女性部連絡協議会、漁協青年部連絡協議会との共催で、これまでに全道の市町村で延べ63回料理教室を開催しています。

今回は、本事業では初めて講演会を企画し、外部の「株オーロラキッチン、南極料理人の西村淳先生」に講演を依頼いたしました。演題は、「ごはんにしよう！」です。西村氏は南極での男達の魚を含めた「食」や「料理」に関する「戦い」をユーモアを交え講演されました。

特に、心に残った言葉がありますので、ご紹介致します。一つは、世界的に、温暖化が懸念されているが、地球的には、500年後に来る氷河期が恐ろしい。

一つは、人間は、70%の力で良い、立ち止まる、見直す、引き返す事も大切である。

一つは、食育とは、大切な人に食事を作っている後ろ姿を見せる事と考えている。



左端が講演者の西村氏



研修会に参加した青年部員



南極料理人西村氏の講演(釧路)

## 漁師になりたい若者と浜をつなぐ活動

### = 北海道漁業就業支援協議会 =

北海道漁業就業支援協議会は、平成27年度の活動として5月に「北海道漁業就業支援フェア2015 in さっぽろ」の開催、6-11月研修生との面談の実施及び12月一般社団法人 全国漁業就業確保育成センター主催の「漁業就業支援フェア 2015（東京会場）」への出展等を行ってまいりました。その他、ウェブサイトを、電話、面談等により漁業就業に関する情報の収集や提供などを行い、相談窓口としての機能を果たしてきました。

国費の長期研修事業においては、今年度は前年度からの継続研修生が12名（前年度6名）、新規研修生は10名（同15名）でした。道費事業では継続者はおらず、新規に3名（同4名）が研修を開始しました。国費研修生4名は7月までに研修を修了しており、平成27年12月31日現在一人の落伍者もなく、国費事業は18名が、道費事業は3名が研修を継続中です。

なお、今年度最後の漁業就業支援フェアを平成28年2月21日（日）に札幌市で開催する予定です。



漁業就業支援フェアを告知するチラシ

## 長期漁業研修生に対する面談活動

協議会では、漁業研修が計画どおり行われていることの確認（進行管理）と研修中の課題を聞き取ることを目的に、長期研修生に対して面談活動を行っています。

今年度は平成26年度からの国費継続研修生8名と新規研修生9名（10月に研修を開始した1名については新年度に行う予定）および道費新規研修生3名の計20名を対象に研修が行われている担当漁協で面談を行いました。面談の結果、多くの研修生が意欲的に研修を続けており、研修は計画どおりに進捗していました。

研修生との面談で次の特記事項がありました。

1. 漁業に興味を持ったきっかけとして、身近な人（兄弟、友人等）からの情報で漁業就業を目指したという人が少なからずおり、身近な人の意見は「本人の背中を押す」役割として大きいのかもしれない。

2. また、昨年度も同様の傾向でしたが、今年度も漁業種類や地域を選んで研修に入った人は意外と少なく、フェアでの親方の対応が決め手だったという人が多いことが再確認されました。フェアでの指導者の対応が重要であることが分かります。

3. 研修中の労働に対して、肉体的にきついと感じる人とそうでもないと感じる人に二分されましたが、要因として漁業種類によって労働の質の違いがあるものと考えられました。

4. 生活環境として医療施設の有無は重要と考えられますが、研修生は概ね健康を維持しており、医療機関に通院していないため、不便



さを感じる人はほとんどいませんでした。ただし、耳鼻咽喉科等の専門医療機関が無いということには不安を感じている人が2人いました。

5. 食料品や日用品の買い物についても、現在はこの地域にもコンビニがあり、またインターネットを利用して安く買い物ができることから、漁村での生活にもかかわらず大きな不満にはなっていないようでした。

6. 漁労は労働時間が長く、肉体的にもきつい労働のため、独身者は食事を用意するのが面倒になることがあるようです。そのような時には外食しようと思いますが、都会とは異なり食事処を確保できず、不便さを感じている人がいました。漁村では食事をするとところが極めて少なく、かつ営業時間と漁師の食事時間とのミスマッチもあるのでしょう。

7. 独立型研修の期間は3年のため、2回、3回と面談を重ねる人が出てきますが、彼らは会うごとに精悍な顔つきに変化していくことが分かり、面談する側としてはなんだかうれしくなってきました。

なお、今年度面談した研修生のうち、「道外からやってきて研修生になった人」を新刊冊子で取り上げ、特集しました（新刊行物紹介、P13）。



平成27年12月5日（土）、東京メトロ半蔵門駅直結ベルサール半蔵門で開催された「漁業就業支援フェア 2015（東京会場）」（一般社団法人全国漁業就業者確保育成センター主催）に出展し、北海道での漁業就業相談の窓口を設けました。

協議会等を含めた出展団体総数は63（漁業者等の出展団体数は55）、来場者は299名という多くの人が来場しました。当協議会には11名（昨年度は10名）が訪れ、北海道での研修・就業に強い意欲を示した人が訪問者11名中4名いましたので、彼らが2月の札幌フェアに参加することを期待しています。



就業相談をする来場者



北海道漁業就業支援協議会のブース



説明を聞く大勢の来場者

## ウェブサイトの訪問者

北海道水産会のウェブサイトと併設している北海道漁業就業支援協議会のウェブサイトスマートフォン用のウェブサイトを追加開設してから協議会へのメールや電話の件数が増加しました。そこで、ウェブサイト利用の実態を調べてみました。

北海道水産会のウェブサイトを訪れる人が利用しているOS（コンピュータやスマートフォンなどのシステム全体を管理するソフト）を調べてみると、Windows（主にパーソナルコンピュータで利用されているOS）が約60%、iOS（アップル製のモバイル機器であるiPhoneやiPadのOS）が約19%及びAndroid（グーグル製のOSでスマートフォンやタブレットに組み込まれている）が約19%でした（図1）。Windowsの中には約2%のスマートフォンなどのモバイル機器が含まれていますが、概略約6割がPCで、約4割がモバイル機器（スマートフォンなど）からの訪問者だということが分かります。

次に、北海道水産会の訪問者が最初に見るページは北海道漁業就業支援協議会の「漁師になるにはQ&A」が32%、同「トップページ」が23%及び同「フェア情報」が20%で（図2）、訪問者の約7割5分の人が最初に北海道漁業就業支援協議会のページを訪問していることが分かりました。

訪問者のデータを分析すると「時代はPCからスマートフォンへ」が見えてきました。

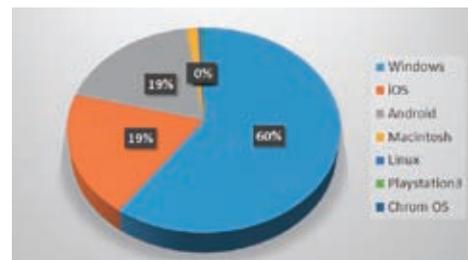


図1. ウェブサイトを訪問者が利用しているOS

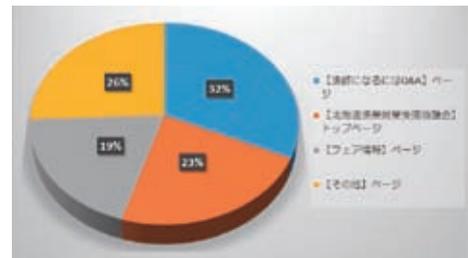


図2. ウェブサイトを訪問者が最初に入るページ

# 北方地域漁業権をめぐる活動

## ◆ 北方地域漁業権補償推進委員会理事会と代議員会の合同会議開催

平成27年度北方地域漁業権補償推進委員会の理事会及び代議員会の合同会議を11月26日に開催致しました。

### 1. 高橋委員長「(一社) 北海道水産会 代表理事副会長」の挨拶

最近の日口関係を見ますと、なんといいましても、今年中のプーチン大統領の訪日が残念ながら実現しない方向となったことです。来年5月に開催されます三重県伊勢志摩サミットの前の調整ということで、11月の首脳会談では、「最も適切な時期」に実現する方針を確認しました。



合同会議の様子

従来より、日口関係は、良い状況へ行こうとすると、何らかのアクシデントがあり、思いどおりに行かないことで、落胆しておりますが、一喜一憂せず、冷静に状況を見つめることも大切です。ロシアを取り巻く環境は、ウクライナ問題に加え、シリア問題も発生しており、我が国にとって良い環境とは言えない状態です。

しかし、要望活動においては、誠意を持って粘り強く、特に、漁業権補償問題は、国内問題であることを主張し、補償問題の解決の実現をより一層強く訴えることが大切です。

ご来賓の皆様方におかれましても、宜しくお願い致します。

### 2. 合同会議における審議は、次のとおりとなりました。

#### 1) 役員の選任について

副委員長に、根室支部 支部長 小倉啓一様 (歯舞漁協組合長) が就任されました。

2) 平成26年度事業報告及び収支決算について  
原案のとおり、承認されました。

3) 平成27年度事業計画(案)及び収支予算(案)について  
原案のとおり、承認されました。

4) 要望事項の実施について  
原案のとおり、承認されました。

## ◆ 北方地域漁業権補償推進委員会道及び中央要望

北方地域旧漁業権補償措置の実現に関する要望は、これまで、60年以上に亘って毎年行っております。元島民の高齢化に伴い、物故者が増加している中、早期の補償実現を要望し、特に、漁業権問題は国内問題であること、北方四島が返還となれば、即、漁業権の問題が発生し、浜での混乱も発生すること、また、現地での道議会及び国会議員の先生方との意見交換会時には、もつと元島民の話聞く時間を設定して頂きたいこと等を強く要望いたしました。

要望先は、次のとおりです。

11月26日に、道議会議長及び副議長、北方領土対策特別委員会委員長、水産林務委員長、水産林務部長、北方領土対策局長、また、11月27日には、衆議院及び参議院沖繩及び北方問題に関する特別委員会委員長と理事及び委員、内閣府副大臣(沖繩及び北方対策担当)及び内閣府大臣政務官、自民党道連会長、公明党北海道本部代表、民主党 北海道 代表。



遠藤道議会議長、角谷北方委員長、松浦水産委員長への要望書提出



篠原北方領土対策局長への要望書提出



山崎水産林務部長への要望書提出

## 新刊行物紹介

冊子「北海道で漁師になろう 6 私たちは道外からやってきた漁業就業研修生です」を発行しました。道外から本道に漁業就業した人を紹介しています。冬期間の厳しい北海道になぜ移住してきたのか。なぜ、厳しい野外での作業である漁業を選択したのか。北海道での漁師という職業に興味がある方は、彼らの生き方が参考になると思います。この冊子で長期研修の内容を知り、あなたの漁業就業情報の一つに加えていただきたいと思います。ご希望の方には本冊子を無料で差し上げますので、お申し込みください。なお、北海道漁業就業支援協議会のウェブサイト (<http://h-suisankai.or.jp/conference/>) にも全ページを掲載しています。

INDEX	
北海道の漁業に興味があるんです 典型的なUターン	1
利尻郡工町鬼屋 大岡 邦平さん	4
あの3・11に被災しましただから	6
森町上台町 深野 良彦さん	6
友人とともに漁師になる	8
利尻町高形 川嶋 祐登さん	8
漁が大好き	10
利尻町高形 佐藤 雅惟さん	10
ウツロ高形はがみんぐの漁	12
利尻町高形 水負 和彦さん	12
九州男ですよろしく	14
利尻町高形 古岡 隆雄さん	14
尻尾の旗を掲ぐUターン漁	16
利尻町高形 小林 廉一さん	16



### 北海道水産会 No.266

発行日 平成28年2月15日  
 発行 一般社団法人 北海道水産会  
 発行人 川崎 一好  
 編集 一般社団法人 北海道水産会  
 住所 札幌市中央区北3条西7丁目（北海道水産ビル内）  
 電話 011-271-5051 FAX 011-271-5053  
 E-mail fish10@h-suisankai.or.jp  
 印刷 株式会社 水産北海道協会

北海道水産会  
ウェブサイトトップページ



北海道漁業就業支援協議会  
スマホ-ウェブサイトトップページ



## 一般社団法人 北海道水産会

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地

北海道水産ビル内

TEL: 011-271-5051 FAX: 011-271-5053

E-mail: fish10@h-suisankai.or.jp

URL: http://h-suisankai.or.jp/